

**けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
第18回 企画・広報分科会
2019年度活動報告・2020年度活動計画(案)**

2020年4月20日
企画・広報分科会

企画・広報分科会の体制変更

1. 変更点

- ・リーダー：青木哲郎（NICT）（九津見運営・研究部会長のご指名：2020年4月10日）
- ・メンバー：事務局メンバーも参加 ※メンバーは資料2を参照

2. 変更の趣旨

企画・広報分科会は、発足当初より会員団体の視点から協議会の活動・企画・主要イベントや広報などの要望をまとめ、事務局と連携して具体施策へ落とし込む運営を行って参りました。

しかし、ここ数年は、事務局において企画、広報の立案、活動をおこない、企画・広報分科会で承認、助言をおこなう運営となっており、会員からの声を汲み上げ、協議会活動に反映する本来の役割が十分に果たせていないのでは、との声が出ています。一昨年より、運営・研究部会から、新たな協議会活性化の施策検討や提案を企画・広報分科会に求める要望を頂いているのもこの為と思われます。

そこで、企画・広報分科会の役割を果たしてゆくため、運営・研究部会長のご指示の下、企画・広報分科会に事務局メンバーが参加し、一体となって産学官連携促進によるメリットを発揮する協議会運営を目指してゆくことと致しました。

(参考) 分科会設置要綱

第2条 分科会は、参加を希望する会員で構成する。

第3条 分科会には、部会長が指名したリーダーを置く。

○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

青木 哲郎（NICTユニバーサルコミュニケーション研究所企画室 室長）

（サブリーダー）

村田 稔樹（沖電気工業 経営基盤本部 研究開発センター AI技術研究開発部
スペシャリスト）

○ 分科会の活動方針

1. 創造系活動

- ・協議会活動のメリットを最大限に発揮する新たな活動の創造
- ・定期的な会員への研究ニーズ調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

2019年度の活動報告①

1. 創造系活動

- ① 新規ワーキンググループ立上げ準備活動の提案を公募した。残念ながら応募がなかった。
- ② 8月に全会員向けにアンケートを実施。シンポジウムやセミナーのテーマをWebアンケートで会員にヒアリング・確認した。また、シンポジウム、セミナーの機会にアンケートを実施し、協議会活動への要望等を調査した。
- ③ WG活動費をWGに配分し、WG活動の支援を継続した。出展費用、実験費用などに活用していただいた。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム「多言語音声翻訳技術の新展開に向けて」を開催した（1月28日、ホテル阪急レスパイア大阪、大阪市）。例年は秋に開催するところであるが、次期グローバルコミュニケーション計画の発表をにらみ、年明けの開催とした。
- ② 総会での講演会を企画、実施した（脳情報研究とけいはんなリサーチコンプレックスの取り組みをテーマに、NICT安藤氏による講演、6月12日、けいはんなプラザ）。
- ③ 情報提供、人材育成に向けた取り組みとしてセミナーを昨年同様3月に開催を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。
- ④ けいはんな情報通信フェア2019（10月31日-11月2日、けいはんなプラザ）において、ブース展示をおこない、研究活動の紹介とアピールを実施。
- ⑤ ウェブページ、動画サイトの充実により、協議会活動の一層の情報発信、普及・啓発活動につとめた。
- ⑥ 情報通信の研究開発にかかわる他団体主催のイベントに協賛をおこなったりするなど、他団体と共同でプレゼンスを高めるとともに、情報交換、交流をおこなった。また、引き続き、関西ICT研究交流連絡会を通じたイベント情報の交換をおこなった。

3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設の充実に向けた活動として、研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設の維持、整備をNICTで実施。
- ② オープンラボ施設の広報を継続。現在5社が利用。

2019年度の活動報告②

	2019年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月		
企画・広報分科会	● 第17回 分科会 (3/11)												● 第18回 分科会		
創造系活動					WG活動支援 新規テーマ公募準備		● 新規テーマ公募 会員アンケート								
促進系活動	総会企画準備								シンポジウム開催準備						
整備系活動					随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)										
【協議会関連】					● 第19回 運営研究 部会 (4/23)		● 第18回 総会 (6/12)		● けいはんな 情報通信 フェア2019 (10/31-11/2)				● 協議会主催 シンポジウム (1/28)		
					事務局打合せを月1回程度開催										

2019年度の活動報告③ けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム開催結果

○日時：2020年1月28日（火） 13:30～17:30
 ○場所：ホテル阪急レスパイア大阪（大阪市北区）
 ○来場者数：59名（交流会36名、アンケート回収数27）
 ○主催：けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
 ○共催：（公社）関西経済連合会、（国研）情報通信研究機構、総務省近畿総合通信局、（公財）関西文化学術研究都市推進機構
 ○概要：多言語音声翻訳技術の東京オリンピック・パラリンピックでの実装をターゲットとしたグローバルコミュニケーション計画が2019年度で一区切りとなることから、今回のシンポジウムでは、グローバルコミュニケーション計画のこれまでの成果と大阪・関西万博での実装も視野に入れた次期の開発計画について、産官の第一線の方々よりご講演をいただきました。出席者からは、タイムリーな企画であった、多言語対応技術の普及を感じさせるなどの感想をいただきました。

- プログラム 「多言語音声翻訳技術の新展開に向けて」
- ◆開会挨拶 九津見 洋氏（当協議会理事、運営・研究部会長）
- ◆「次期グローバルコミュニケーション計画に向けて
 ～多言語翻訳技術のさらなる飛躍～」
 影井 敬義氏（総務省国際戦略局技術政策課研究推進室課長補佐）
- ◆「AI翻訳立国」
 隅田 英一郎氏（国立研究開発法人情報通信研究機構
 先進的音声翻訳研究開発推進センター副センター長・NICTフェロー）
- ◆「世界とポケットークしよう」
 川竹 一氏（ソースネクスト株式会社技術戦略室執行役員）
- ◆「コニカミノルタのハイブリッド通訳システムとは」
 川崎 健氏（コニカミノルタ株式会社
 セールス&マーケティングマネージャー）
- ◆「やさしい日本語のインパクト」
 吉開 章氏（やさしい日本語ツーリズム研究会代表）
- ◆閉会挨拶 林 信秀氏（総務省近畿総合通信局 情報通信部長）
- ◆交流会



九津見 洋氏



影井 敬義氏



隅田 英一郎氏



川竹 一氏



川崎 健氏



吉開 章氏



林 信秀氏



講演会場



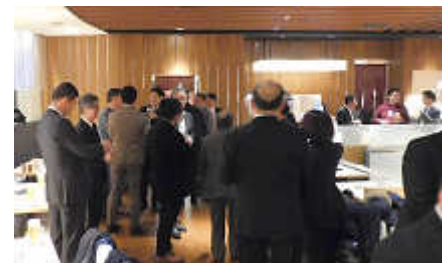
講演会場



講演会場



講演会場



交流会

2019年度の活動報告④ 「新規ワーキンググループ立上げ準備活動の提案」の募集

当協議会の活動をより多くの方に知って頂き、また、新たな活動の起爆剤とすべく、情報通信分野の産学官連携によるオープンイノベーションで社会課題を解決することを目指す「新たなワーキンググループ活動の構想と、ワーキンググループ立上げに向けた準備活動の計画(予備調査・研究、参画者募集活動など)の提案」を募集した。募集にあたり、最大100万円の活動費を予算計上し、審査は運営・研究部会にて実施とした。

募集期間: 2019年9月17日～10月31日

周知先: 会員に加え、関西ICT研究交流連絡会、近畿情報通信協議会、情報処理学会関西支部等

募集結果: 残念ながら応募がなかった。

2020年度の活動計画①

1. 創造系活動

- ① 活動テーマを設定し、これに沿ってグローバルコミュニケーション計画2025での実用化・実証実験を目指す新たな準備WG活動立ち上げを目指す。
- ② 会員アンケート、ニーズ調査により、協議会への会員の要望などを確認し、活動テーマへの反映を推進する。
- ③ WG活動費によるWG活動の支援を継続。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2020の開催（11月～12月予定）。
- ② セミナー、見学会などの開催による情報提供、人材育成の実施。
- ③ けいはんなR&Dフェア2020において、ブース展示による研究活動紹介、広報活動（11月5日～7日、けいはんなプラザ）。
- ④ ウェブサイト、動画サイトを活用した協議会活動の一層の情報発信や広報・啓発活動の強化。
- ⑤ 情報通信の研究開発にかかわる他団体（グローバルコミュニケーション開発推進協議会、次世代安心・安全ICTフォーラム、AC・Net、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム等）と共催、協賛イベントの開催や情報交換、交流、連携促進。引き続き、関西ICT研究交流連絡会を通じた連携。
- ⑥ 地域の研究開発活動との連携を強化する。

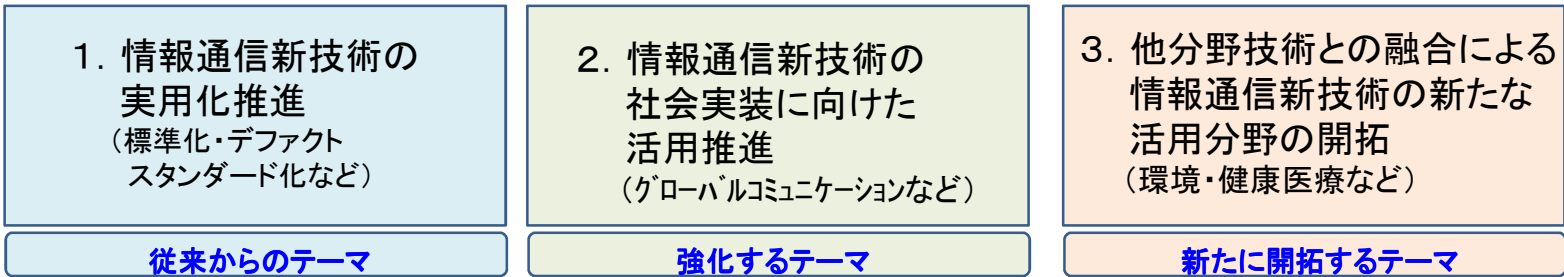
3. 整備系活動

- ① 研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設を含むオープンラボ施設の維持、運用と充実に向けた活動の実施。
- ② オープンラボ施設の広報の実施。

目指す姿



取組みの方向



基盤技術



総務省の研究開発の一環として、NICTの多言語翻訳技術の更なる高度化のため、グローバルコミュニケーション計画2025が発表されました。本計画では、世界の「言葉の壁」をなくすために、多言語音声翻訳技術を活用し、「逐語訳」から「同時通訳」への進化と社会実装の更なる進展を目指すこととなります。

その中で、社会実装のターゲットの一つとして、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)に向けた同時通訳システムなどの実装が盛り込まれました。

※参考資料を参照

そこで、本計画の立ち上げに合わせて、新たな多言語翻訳技術への要望や実用化・実証への参加を検討・実行する企業を募り、新たなWGの形成に向けた提案を、来期の創造系活動で盛り込んで参ります。

2020年度の推進イメージ

グローバルコミュニケーション計画2025の発信（非会員含む）

実用化・実証への期待・アイデア・要望などについての意見収集・意見交換
準備WG形成への見極め

※これまでのグローバルコミュニケーション計画の概要と当協議会の取り組みは参考資料をご確認願います。

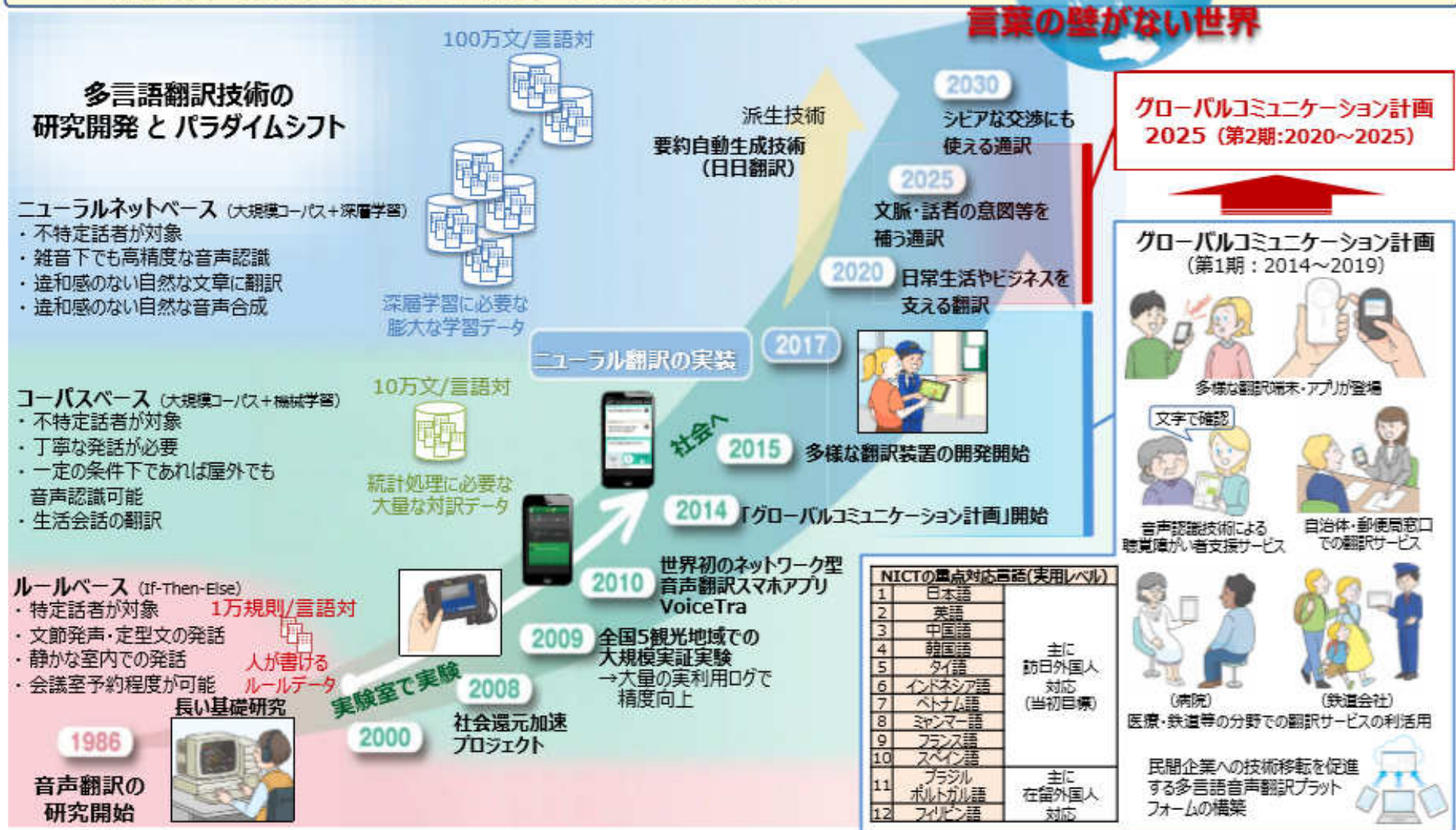
※現グローバルコミュニケーションWGは、準備WGと一体化する方向で検討します。

2020年度の活動計画④

	2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月
企画・広報分科会	● 第18回 分科会									● 第19回 分科会 (3~4月)			
創造系活動				新準備WG立上げに向けた活動									
				WG活動支援									
				ニーズ調査、テーマ検討、体制整備									
促進系活動	→ 総会企画準備			→ セミナー開催準備			→ シンポジウム 開催準備			→ セミナー開催準備			
				随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)									
整備系活動				けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用									
				JGNなどのネットワーク施設整備・運用									
【協議会関連】	● 第20回 運営研究 部会		● 第19回 総会	● セミナー (9月頃)			● けいはんな R&Dフェア2020 (11/5-7)	● 協議会主催 シンポジウム (11~12月)		● セミナー (2月頃)		● 第21回 運営研究 部会 (4~5月)	
				事務局打合せを月1回程度開催									

ただし、感染症拡大予防のために、事業の中止や延期、ネット開催などについて随時状況に応じて検討する。

- 我が国の多言語翻訳技術は、30年の研究開発を経て実験室から社会へ、これからは日常生活からビジネスへ
- 「グローバルコミュニケーション計画」に基づく取組により、AI技術も導入し、翻訳精度を向上（12言語で実用レベルを達成）
- NICTから民間への技術移転も進め、多様なサービスが実用化・普及



ミッション
(Mission)

世界の「言葉の壁」をなくす
～「逐次翻訳」から「同時通訳」へ進化、社会実装の更なる進展～

ビジョン
(Vision)

1 グローバルで自由な交流の実現

様々な会話を高精度に翻訳できる多言語翻訳技術の高度化と社会実装の更なる進展により、世界の「言葉の壁」をなくし、世界中の誰もが自由に交流する社会を我が国の技術によって実現する。

2 ビジネス力の強化と真の共生社会の実現

AIによる多言語翻訳技術の高度化や重点対応言語の拡大により、国際会議やビジネス等の議論の場面におけるAI同時通訳の活用を可能とし、企業のビジネスチャンスの拡大や海外連携の促進等を通じて、産業の活性化や市場の拡大を図るとともに、地方も含む日本全国で今後も増加が見込まれる訪日・在留外国人との交流や生活の場における「言葉の壁」の解消を図る。

3 日本のプレゼンス向上

2025年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けて、パビリオンにおける出展者と来場者との多言語リアルタイム対話や講演会場における多言語同時通訳を実現するなど、我が国の革新的多言語翻訳技術を世界に先駆けてフル活用することにより、世界から集う方々に「おもてなし」を提供し、国内外での経済・社会活動において日本の価値と魅力を高める。

目標
(Target)

2020年 日常生活やビジネスを支える翻訳 (Conversation Level)

日常生活・行政手続・医療・旅行・ビジネス等の場面での会話をサポートするレベル。今後も増加が見込まれる訪日外国人・在留外国人にも対応して、多言語翻訳（逐次翻訳）技術の社会実装の更なる深化・拡大、利便性向上、多様なサービスの出現。

2025年 文脈・話者の意図等を補う同時通訳 (Discussion Level)

ビジネス・国際会議等での議論の場面も含め、文脈（会話・文章の流れ）、話者の意図、周囲の状況、文化的背景等を補いながら翻訳するレベル。高精度と低遅延を両立する実用レベルの同時通訳を実現。
「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を踏まえ、多言語翻訳技術の重点対応言語についても拡大。

2030年 シビアな交渉にも使える同時通訳 (Negotiation Level)

ビジネス・国際会議等でのシビアな交渉でも利用可能な、TPOや状況に合わせた表現で翻訳するレベル。

プロジェクト3

2025年日本国際博覧会に向けた
同時通訳システム等の社会実装プロジェクト
3-1

多言語翻訳システムの更なる普及・発展

今後も増加が見込まれる訪日外国人・在留外国人にも対応しつつ、自治体・学校・医療・交通・観光など地域社会における課題やニーズが生じる分野において、これまでの技術や運用ノウハウを応用したサービス領域の拡大、AI技術や多様なICTとの組み合わせによる利便性向上など、多言語翻訳システムの社会実装の更なる推進や利活用を容易とする環境整備を行う。

プロジェクト
3-2

同時通訳システムの社会実装

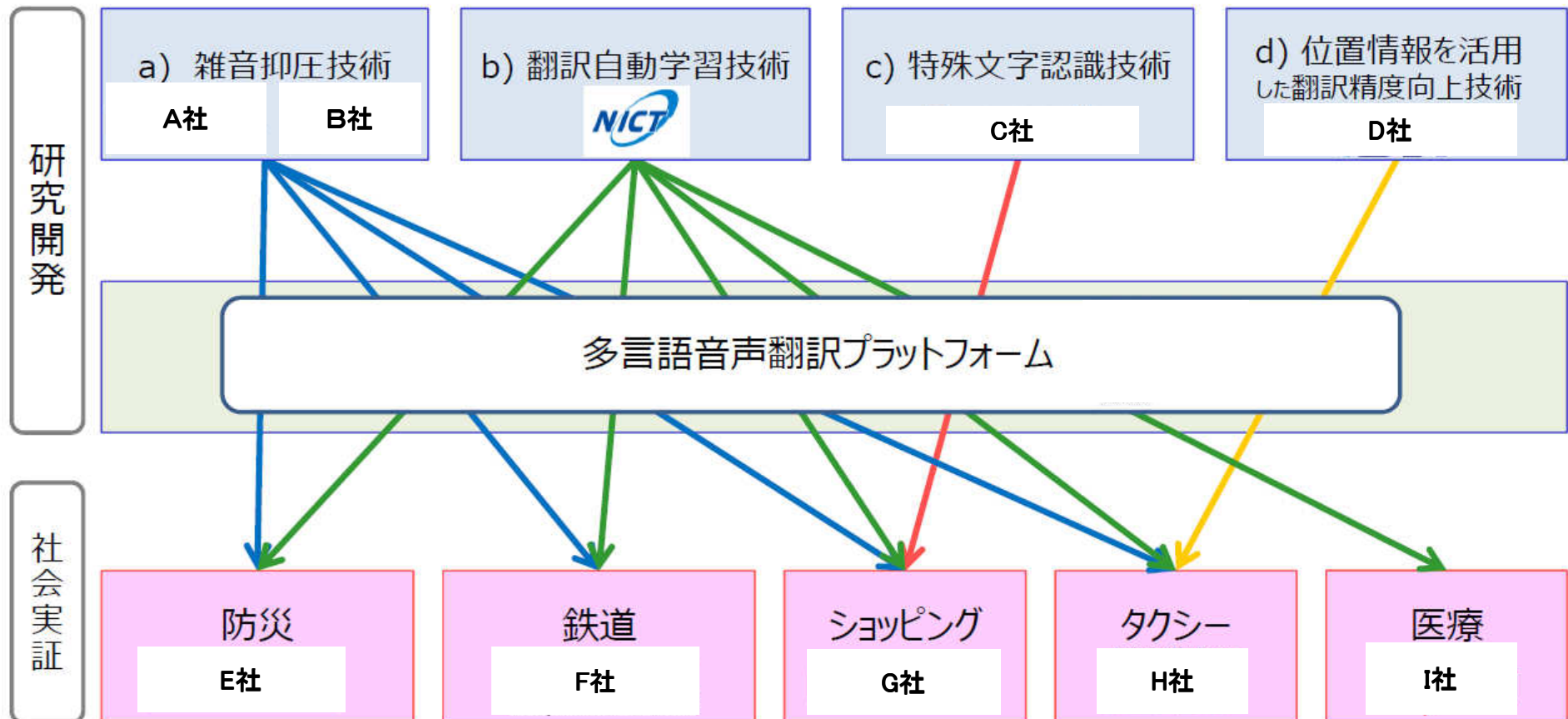
2025年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けて、産学官連携により、同時通訳技術及びこれと様々な技術とを組み合わせたシステムを段階的に実現するとともに、各種見本市やパビリオン等での技術の利活用も通じて、社会実装を推進する。

＜サービスの段階的な実現イメージ＞

- ① 講演・プレゼン・ガイド（→1対Nの片方向通訳）
- ② 会議・商談（→N対Nの双方向通訳）
- ③ 遠隔協業（→①②に他のデバイスと組み合わせユーザインタフェースを高度化）

「グローバルコミュニケーション開発推進協議会（GCP協議会）」が設立され、具体的な研究開発の取り組みが進む

- ・多言語翻訳技術課題に対する研究開発
- ・実証／社会実装に不可欠な多言語翻訳プラットフォームの開発
- ・社会実装に向けた5分野での社会実装



2019年度に行われたフィールド実証実験

	タクシー	ショッピング	鉄道	医療	防災
翻訳端末・ サービス 開拓	車載 端末	自社製 端末展開	自社製 アプリ展開	ハンズフリー PF接続	ベンチャー複数社の サービス化
訪日 外国人 対応	鳥取県内 ↓ 西部地区 (米子市等) 御殿場市内 市内全域 (富 士山御殿場口 アウトレット等)	鳥取市内 商業施設 展開 長野県 志賀高原 全域 ・観光協会 ・創生公社 ・案内所 ・ホテル/旅館 ・長電バス	江ノ電駅 (鎌倉,長谷,江ノ島) サムエルコッキング苑 江ノ島展望灯台、等 神奈川県 藤沢市	藤沢 市民病院 藤沢市 歯科 医師会	藤沢市 2020に向けた防災訓練(仮) 藤沢観光案内所 セーリングWC 商工 会議所 三重県伊勢市 ホテルメトロポリタン 池袋ショッピングパーク
地域活性化 支援					
在留 外国人 対応		・飲食店 ・空港(民営化) ・バス乗場 ※雑音環境 ※文字認識 ニーズの高い所			東京都 豊島区 杉並区 埼玉県坂戸市 外国人就労環境での実証

- ・2015年10月22日
シンポジウム2015にて「グローバルコミュニケーションシンポジウム2015
～2020年に訪日外国人が日本語で困らない社会の実現に向けて～」を開催
- ・2015年度
グローバルコミュニケーション準備WG立上げ
明日香村での実証実験
- ・2016年度
グローバルコミュニケーションWG立上げ
京都嵯峨野での実証実験に参加
- ・2017年度～2019年度
東京オリンピック・パラリンピックでの活用などを旨し、GCP協議会の活動に参加
研究開発・PF開発・実証実験などの推進状況を把握し、WGメンバーと共有
- ・2020年1月28日
シンポジウム2019にて「多言語音声翻訳技術の新展開に向けて」を開催

2015年～2019年度、グローバルコミュニケーション開発推進協議会で研究開発などを推進

グローバルコミュニケーション開発推進協議会

会長 東京大学大学院 情報学環教授 須藤 修

副会長 日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）

幹事会

全体の活動方針 等

(事務局：NICT)

研究開発部会

多言語音声翻訳システムの研究開発の推進
 ①多言語音声翻訳技術の動向調査
 ②研究開発、サービス開発ロードマップの策定
 ③音声翻訳に関わる性能評価

実用化促進部会

多言語音声翻訳システムの実用化の促進
 ①社会実証プロジェクトに向けたサービス開発方針の検討
 ②ベストプラクティス（活用事例）の共有、発信
 ③実用化に向けた課題の抽出、解決方策の検討
 ④周知・広報の推進

(各部会の下にワーキンググループを設置)

**NICT 先進的音声翻訳
研究開発推進センター**



⇔ 協力
 多言語音声翻訳システムの開発
 ①研究開発のロードマップの作成
 ②エンジンの開発、提供
 ③コーパスの整備、提供
 ④ライセンス条件の検討

【幹事社】

- 株式会社ATR-Trek
- KDDI株式会社
- ソニー株式会社
- 株式会社東芝
- 凸版印刷株式会社
- 奈良先端科学技術大学院大学
(データ駆動型サイエンス創造センター
センター長 中村 哲)
- 日本電気株式会社
- 日本放送協会 放送技術研究所
- 株式会社日立製作所
- 株式会社フィート
- 富士通株式会社

【研究開発部会長】

奈良先端科学技術大学院大学
(データ駆動型サイエンス創造センター
センター長 中村 哲)

【実用化促進部会長】

KDDI株式会社

206会員 (2020.1.14 現在) 会員募集中